

生活科学習指導案

- 1 日 時 平成28年10月5日(水) 第5校時
- 2 学 年 第1学年1組 男子17名 女子4名
- 3 単元名 むしとあそぼう
- 4 単元について

(1) 教材観

本単元は、生活科学習指導要領内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。」を受け設定したものである。児童が自らの手で継続的に虫を飼う活動を通して、身近な生き物に興味を持ち、それが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、大単元では動植物を大切にすることができるようにすることを目指している。本単元では、虫を飼った後、学習した内容を思い出して整理したり、もっと詳しく知りたいことを調べたりして紹介し合う活動を行うことで、表現力、思考力、判断力、課題追求力を伸ばすことができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、多くの児童は遊具やボール等で遊ぶことに夢中で、周りの自然に関わって遊ぶ姿はあまり見られない。放課後は、学校内外にゲームを持って集まり遊んでいる姿をよく見かける。自然と関わる経験が少なく、自分から自然に親しむ楽しみに気付いていない。また、自然環境が少なくなっている環境の中で、日常的に生き物と関わっている児童は少ない。秋になり、サツマイモ畑の草取りの際に見つけた虫に興味を持つ児童が増えている。しかし、虫などの生き物を飼育する活動を行ったことがない児童がほとんどで、虫を見つけても触ることができなくて逃げてしまう児童も数名いる。これまでの生活科の学習では、学校内外にある植物や施設、人には積極的にかかわってきたが、虫などの生き物に目を向けるのは本単元が初めてである。

(3) 指導観

指導にあたっては、学級園や校庭で身近な虫を見つけて捕獲し、継続的に観察や世話をすることで、親しみをもち虫に関わり、虫も生命をもっていることや活動の中で自分も成長していることに気付かせたい。そのために、草がのびたサツマイモ畑の草取りをさせることで、秋の虫との接点を作り、虫の捕獲・飼育活動へと進めていく。虫が生息する場所や捕獲の仕方など自分なりに調べて虫探しをさせる。虫が苦手な児童もいるので、小グループで虫を捕まえるようにする。虫が好きな児童に虫を捕まえてもらい、観察させ、徐々に慣れさせていく。自分たちで捕獲し、育てると決めた一匹の虫の生命が長らえるように、調べたり人に聞いたりして試行錯誤をしながら世話をさせる。観察の場面では、虫の動き方や体の特徴等児童のすなおな気付きを大切に、身体表現や絵、文章で表せるよう助言し、みんなに伝え合う活動を仕組む。虫との関わりを楽しみながら深めていき、普段の児童の生活からは想定できない虫たちの生き方の気付きや、世話をすることができた自分自身への気付きなど、より質の高い気付きや生命の大切さの実感へと繋げたい。

5 単元の目標

身のまわりにいる虫などの生き物に興味を持ち、それらを探して捕まえ、それらの餌やすみかを意識して、大切に飼育している。 【関心・意欲・態度】

虫などの生き物が育つ場所はどこか考えながら探したり、生き物のために、餌やすみかを工夫して飼育したりして、気付いたことをすなおに表現できる。 【活動や体験についての思考・表現】

生き物の動きや餌、育つ場所等の特徴に気付くとともに、自分や友だちの生き物への関心の変化に気付くことができる。 【身近な環境や自分についての気付き】

6 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身のまわりにいる虫などの生き物に興味を持ち、それらを探して捕まえたり、それらの餌やすみかを意識して飼育したりして、それらに親しみを持ち、大切にしようとしている。	虫などの生き物が育つ場所はどこか考えながら探したり、生き物のために、餌やすみかを工夫して飼育したりして、気付いたことを自分なりの方法で表現している。	生き物の動きや餌、育つ場所等の特徴に気付くとともに、自分や友だちの生き物への関心の変化について気付いている。

7 本単元において育成しようとする資質能力

【知識】 虫の飼い方を資料や聞き取りから調べ、生き物によって適したすみかがあることを理解する力

【スキル】 虫を飼って気付いたことを、動作や絵、記録カードに整理して表す力

【意欲・態度】 自分で捕まえた虫のすみかや餌を整え、大切に飼おうとするチャレンジ精神

【価値観・倫理感】 友だちの気付きや発表を聴き合い、互いのよさを見つけ合いながらつけていく自らへの自信

8 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習内容	評価				
			意欲	思考表現	気付き	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一 む し を	1	課題の設定 学級園の草取りをする中で、見つけた虫をみんなで観察する。	○			学級園にいる虫などの生き物に興味を持ち、観察しようとしている。 (行動観察・発表)	

さがそう	2	情報の収集				虫などの生き物が育つ場所について考えながら探している。 (行動観察・発表)	
	3	虫を見つけた場所や捕まえ方を話し合い、虫を捕まえる計画を立て、校庭に虫を捕まえに行く。		○			
	4	整理・分析				虫などの生き物の特徴や生き物の育つ場所の気づきを記録カードにかいている。(発表・記録カード)	調べたいことを設定する力(観察・ワークシート)
二むしとなかなかよくならう	5	情報の収集	○			餌やすみかを意識して、大切に飼育しようとしている。(行動観察)	自分で捕まえた虫のすみかや餌を整え、大切に飼おうとするチャレンジ精神(行動観察)
	6	適切な虫の飼い方を調べる。 飼育環境を整える。					
		整理・分析					
		休み時間を使って、餌を用意したり、すみかを整えたりして、虫の世話をする。					
	7	まとめ・創造・表現	○			飼育して気付いたことや動きや餌といった生き物の特徴を整理して、表現している。(行動観察・記録カード、絵)	虫を飼って気付いたことを、動作や絵、記録カードに整理して表す力 (発表・観察)
8	観察して気付いたことを記録カード、動作や絵に表して、発表し合う。						
	9	ふりかえり				生き物の動きや餌、育つ場所等の特徴に気付くとともに、自分や友だちの生き物への関心の変化について気付いている。(発表・行動観察)	友だちの気づきや発表を聴き合い、互いのよさを見つけ合いながらつけていく自らへの自信(発表・行動観察)
本時		虫を飼ってきたことを振り返り、自分や友だちの虫へ関心の変化に気づき、虫をこれからどうするのかを話し合う。			○		
外		虫を元いた場所に戻す。					

9 本時の学習

(1) 本時の目標

世話してきた虫との関わりを振り返り、自分や友だちの虫への関心の変化に気付くことができる。 【身近な環境や自分についての気付き】

(2) 観点別評価規準

◎身近な環境や自分についての気付き

自分たちで飼ってきた生き物への関心の変化に気付くことができる。

(3) 準備物

記録カード、虫のいる飼育ケース

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点（・） ◆配慮を要する児童への支援	評価規準 教科の指導事項(○) 資質・能力(★) (評価方法)
導入	考える 1 これまでの活動を振り返る。	・記録カードや写真などを活用して、これまでの活動を想起させる。	
	2 本時のめあてを確認する。		
展開	むしをかって、かわったじぶんやともだちをみつけよう。		
	3 虫を世話しての発見や疑問、気付きを話し合う。 深める 4 これから虫をどうするか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にかいた記録カードをもとに、虫を世話したことに対する気づきを出し合うようにする。 ・児童の気づきを①楽しかった、うれしかったこと、②虫について見つけたこと・分かったこと、③自分や友だちが変わったことに教師が分類し整理する。 ・虫を飼う前の自分と今の自分を比較させ、変わってきた自分に気付かせる。 ◆気づきを発表できにくい児童には、前時にかいた記録カードを個別に指導し、評価をして自信を持って発表できるようにしておく。 ・自分が虫の立場だったらと考えさせ、捕まえた場所に戻すように促す。 ・どうしても帰したくないという児童がいたら、責任を持って飼い続けるように話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生き物の育つ場所に気付くとともに、生き物への親しみが増した自分や友だちのよさに気付いている。 (行動観察・発表) ★友だちの気づきや発表を聴き合い、互いのよさを見つけ合いながらつけていく自らへの自信 (行動観察・発表)

まとめ	まとめる 5本時の学習を振り返る。	児童のまとめ例 ・虫を初めて飼うことができて、うれしかった。 ・虫のえさやおうちのことが分かるようになった。 ・虫を触れなかったけど、せわをすることができた。 ・〇〇さんは、虫をよく世話していた。
	見通す 6次時は虫を元にいた場所に戻すことを確認する。	・虫に言葉をかけながら放すことを伝える。

(5) 板書計画

10/5 むしとなかよくなるう		
めあて むしをかって かわったじぶんやともだちをみつけよう		
みつけたこと わかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・むしのえさがわかった。 ・むしのかいかたがわかった。 ・むしはしぬことがあるとわかった。 	これからむしをどうするか
たのしかったこと うれしかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・むしのひみつがわかった。 ・かうのがたのしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・にがしてあげる。 ・もとにいたばしょがいい。 ・さよならといってあげたい。
じぶんやともだち がかわったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・むしをさわれるようになった。 ・〇〇さんもさわれるようになった。 ・むしがすきになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・にがしたくない。 ・つづけてせわをして、かいたい。
まとめ ・むしをはじめてかうことができてよかった。 ・むしのことがわかるようになった。 ・むしをさわれなかったけれど、せわができた。		